

家のひまわり

松崎 彩香

七月十三日。朝からポツポツと雨が降って

いた。でも、だれもあんなことになるとは思

ってもしなかつた。時おり強くなる雨の中、

私達はいつものように登校した。雨はやむこ

となく降り続き、何か変だ、いつもと違ふと

みんな思い始めた。グウウーに面した山の

斜面が、不気味な音がした。大きな木が二本

倒れた。山が大きく削られたのだ。教室から

見える稚恩清水川が、どんどん水があふれて

きた。田んぼが順番に水に埋まていく。と

うとうと、学校田の稲も水の中に埋まって見え

なくなつてしまつた。学校は、ぐるりと水に

囲まれてしまつた。給食も届かず、学校の近

くの家の人達が、おにぎりも届けてくたさ

た。みんなでかけて食べた。おいしかった。

堤防が決壊し、学校のまわりはかえって水が

引いた。でも、私の家は水につかた。一生

懸命、泥を洗い流した。おばあちゃんが大切に育てていた、私の家のひまわり畑はダメになつた。

十月二十三日。ゴゴゴゴ。ものすごいゆ

れ。停電。私はおいちゃんと一緒にいた。

おいちゃんと一緒にいても、ごくすくすく

くこわくて死にそうだった。十分後、またゆ

れた。何回も、何回も、強くゆれた。家の中

に、いるのがこわかった。でも、大きいライ

きを使つて、キックを明るくした。はさばさ

にいた家族がその下に集まった。ぼとした。

一週間後、ひまわり畑を見に行つた。途中

の道にはひびが入っていた。ひまわり畑にも

たくさんひびが入っていた。シヨックだっ

た。水害も乗り越えて、力強く育つたひまわり

だ。たのみに。

余震はまだ続いていたけれど、その日から

ひまわり畑をもう一度やり直した。

春には種をまいて、水害のあった頃にはた

ましく成長して、いてほしいから。



そして春、種をまいた。近くの川から

トボトルで水をくみ、みんなでりして水

をあがた。みんな気付かなか、たけれとい

つの間にかぐ、しよりとぬれていた。

そして夏、一三水害から一年後。

ひまわりはすすく伸びていた。アメリカニ

ジカニボはニメートル以上にもな

「あわあ、高いねい。

みんなで喜んで

中越大地震から一年たとうとしていた頃、

ひまわりはたくさんの実をつけておじきをし

ていた。

家のひまわり、それは、みんなの笑顔

無事、安ん、そして幸せの象徴だ。